

不祥事根絶に向けた教育長のメッセージ

～教員としての崇高な使命を深く自覚し、その職責の遂行に努めること～

『千葉の子どもたちの未来のために！』

教職員の皆さんは、日頃から、子どもたちに対する深い愛情や教育者としての誇りと情熱、そして、使命感を持って、日々の教育課題に真剣に取り組み、また、子どもたちの悩みや課題を真摯に受け止め、全力で支えることで、保護者や地域からも信頼を得ていることと思います。

しかしながら、これまであらゆる機会に、不祥事根絶に向けて、教職員一人一人の意識改革と職場風土の改善に取り組むよう求めてきたにもかかわらず、今年度も、児童生徒に対するわいせつ行為、飲酒運転などの重大かつ悪質な事故が連続して発生していることは、これまで県下4万人の教職員が地道に積み重ねてきた教育の営みを脅かし、児童生徒、保護者及び県民の学校教育全体への信頼を著しく損なわせるものであり、何としても教職員による不祥事を根絶しなければなりません。

また、過去の反省が生かされず、個人情報紛失や調査書の誤記載などの事故が、今年度も発生していることや、高等学校の入学者選抜に係る重大な事故が発生したことを踏まえると、不祥事を個人の資質の問題として片付けてしまうのではなく、組織全体の課題として受け止め、切実感を持って組織を挙げて対応していくことが重要です。

さらに、教職員には、地方公務員として服務上の義務が課せられているだけでなく、学習指導、生徒指導等の面でも主要な役割を担うなど、様々な場面を通じて、児童生徒の「全人格的」な完成を目指した教育を実践する上で、児童生徒の成長に大きな影響を与えていることを忘れてはなりません。皆さん一人一人が、教職員としての崇高な使命と職責を十分に自覚し、学校教育に携わるプロとして、専門的な知識はもとより、倫理観や規範意識をより一層高め、服務の厳正に努め、自分の学校からは、不祥事を絶対に出さないという決意を持ってください。

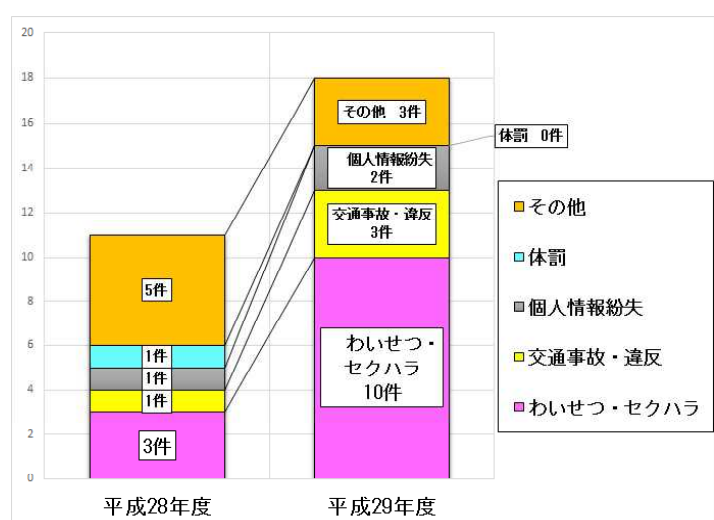
ぜひ、皆さんには、次代を担う児童生徒の無限の可能性を引き出すことのできる、教育愛にあふれた、保護者や地域から信頼され尊敬される教職員として、日々の教育活動に真摯に取り組まれることを切に願います。



※平成29年度の千葉県教育委員会における懲戒処分の状況

- 平成29年度は、わいせつ・セクハラ事案が10件（昨年度の3.3倍）発生しており、18歳以下の女子児童生徒に対する行為が8件（内、自校児童生徒に対する行為は4件）であり、学校教育に対しての信用を大きく失墜させる結果となっている。
- 交通事故・違反3件は昨年度の3倍（内2件は飲酒を伴う事故）である。飲酒運転の危険性に対する認識の甘さが浮き彫りとなった。
- 個人情報紛失2件は、いずれもUSBメモリにセキュリティ対策を施しておらず、漫然とした情報管理の実態が招いた事故である。

当事者意識の欠如が、県民の信頼を裏切る大きな事故につながっています！



懲戒処分状況 (平成28年度との比較)
※平成30年3月9日現在

高い倫理観

平成30年3月
千葉県教育委員会

崇高な使命感